

くもべラボ

杉山 武志（人文地理学研究室）

キーワード：地域創生，地域コミュニティ，創造農村，丹波篠山市雲部地区

1. くもべラボの経緯と概要

くもべラボは、活動開始から 10 年を迎えた人文地理学研究室（杉山ゼミ）の代表的プロジェクトの 1 つである。筆者が創造都市／創造農村論を研究してきた経緯もあり、「ユネスコ創造都市ネットワーク」に登録されている丹波篠山市の東部地域（東部 6 地区＝日置，後川，雲部，福住，村雲，大芋）をフィールドに教育研究と実践活動を続けてきた。くもべラボの活動目的は、人口減少や高齢化が顕著になってきている地域コミュニティとそのなりわいを少しでも回復させていくために、地元の皆さんと一緒に学びあう集いを提供することにある。

くもべラボは、旧雲部小学校の校舎を利活用してコミュニティ経済の循環を高めようと試みる「合同会社里山工房くもべ」を中核的な連携先として、東部 6 地区全域にまで研究調査、実践フィールドを拡げてきた。すなわち、くもべラボには、①雲部地区のこと、②丹波篠山市東部六地区全体のこと、双方のスケールでの取り組みが含まれている。②の活動は、里山工房くもべ内に事務局が置かれている「丹波篠山市東部六地区協議会」と連携して進めてきた。

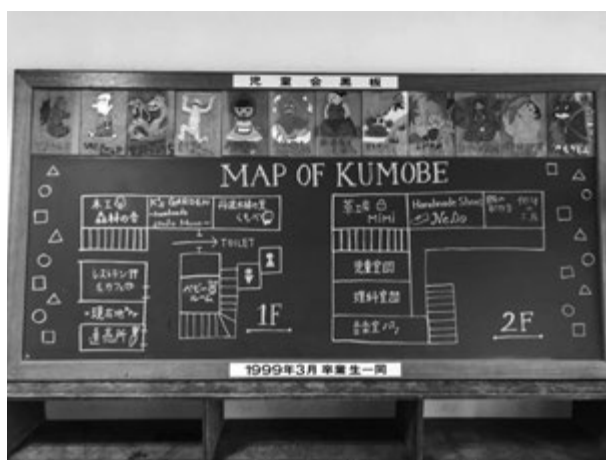


写真 1 里山工房くもべ館内案内

（レストラン・カフェ閉店前のもの）

資料：筆者撮影

2. くもべラボの「終了」と今後の展開

写真 1 に示したのは旧雲部小学校跡「里山工房くもべ」の館内案内（当時）である。このうち「里山工房くもべ」の中心的な存在であった「レストラン・カフェ」が、惜しまれつつも 2024 年 4 月で閉店することとなった（各教室に入居しているアトリエ工房などは継続）。「里山工房くもべ」の活動は、今後どのように展開していくのか研究室側からみていて見通しが立っていない。

一方で、今年度のくもべラボの活動は、2024 年 8 月の波々伯部神社の祭礼への参加、2024 年 11 月の「第 2 回 Go EAST！さとやマルシェ」への参加など、前述②の東部六地区での連携活動が中心であった。活動量としては東部六地区との連携が目立ち始めている。

そうしたなか、くもべラボは今年度を持って、ひとまず活動を「終了」することにした。他方で、くもべラボの成果も活かしながら次年度には、雲部地区も含む東部六地区全体との地域連携に特化した教員プロジェクトを立ち上げる予定としている。もともと人文地理学研究室では（地味に）東部六地区活性化ラボというグループを作っていたのだが、この東部六地区活性化ラボを発展させて、EHC 教員プロジェクトとして申請する。ただ、旧町域スケールを有する東部六地区との連携を本格化させるためには、1 大学（ましてや 1 研究室）のみでの地域連携には限界もある。

いま、東部六地区協議会と一緒に、東部六地区に入っている本学および他大学がゆるやかにつながりあいながら、東部六地区での地域連携を進められる新たな仕組みを考案している。どのような取り組みになるか、ワクワクしたりもする。そのワクワク感を 10 年かけて創造してきたくもべラボの活動には、携わってきた多くのゼミ生たちへの感謝とともに「お疲れさま！」と言ってあげたい。

なお、くもべラボの 10 年を振り返った考察は、本報告集のリーサーチペーパーにおいて書いてある。そちらもぜひ一読してもらいたい。